

国民大運動行動報告

第062号
2021年
12月16日

「軍事費を削って、くらしと福祉・教育の充実を」
国民大運動実行委員会
〒113-8462 文京区湯島2-4-4 全労連会館内
Tel 03-5842-5611 Fax 03-5842-5620

～第 207 臨時国会 安保破棄中実委・中央社保協・国民大運動主催 12.15 定例国会行動～

憲法を踏みにじっておきながら、憲法改悪は許さない！

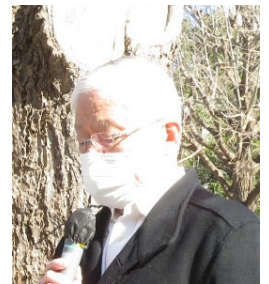
6兆円の大軍拡予算 反対！ 軍事費を削って、国民生活最優先の予算を！

第 207 臨時国会、最初で最後の三者共催による定例国会行動は、12月15日、新婦人の藤井住枝中央常任委員による司会のもとでおこなわれ、80名が参加しました。午後からの衆議院本会議で21年度補正予算案が採決され参議院に送られることが見込まれており、参加者は、大軍拡・改憲の岸田政権を許さず、憲法をいかし国民のいのちと暮らし最優先の政治への転換をと決意を固めました。



復帰 50 年の来年、年頭の名護市長選で必ず勝利を！

主催者を代表して挨拶をおこなった安保破棄中央実行委員会の東森英男事務局長は、「補正予算の軍事費は過去最大の 7,738 億円、当初予算と合わせれば 6 兆円を超え、その中身もミサイル防衛強化など補正予算の趣旨に反するものばかりだ」と指摘。大軍拡と改憲推進の一方で、病床削減を進めて国民のいのちを軽視する岸田政権の危険性を明らかにし、「参議院選挙を見すえて、市民と野党の共闘強化をすすめよう」とよびかけました。



勝利の道は、国会と草の根の改憲反対の運動の結びつき！



国会情勢を報告した日本共産党の赤嶺政賢衆議院議員は、「憲法改悪と結んだ大軍拡、辺野古新基地強化のための補正予算だ」と強調。前日の予算委員会で復帰 50 年にあたり、政府の返還協定強行により基地のない平和な島を願う県民の思いは「弊履のように踏みにじられた」と記した当時の屋良主席の言葉を伝えました。明日の憲法審査会についても「現行憲法を踏みにじっておきながら憲法改悪は許さない、と大論陣を張り、来年の『選挙イヤー』と云われる沖縄で勝利しよう」とよびかけました。

憲法も財政民主主義も壊す危険な動きを断固阻止！ 共闘をひろげよう！

全商連の中山眞常任理事は、補正予算案に盛り込まれた中小業者への「事業復活支援金」の不十分さとともに、「『不備ループ』で中小業者を苦しめ、給付要件を満たしているにも関わらず給付しないとの決定の乱発は、国会が開かれず議員が政府を追及できないからだ」と指摘。「憲法 53 条に基づく国会召集を拒否してきた与党の責任は重い」とし、「憲法も財政民主主義も壊す危険な動きを断固阻止するために、共闘を大きくひろげよう」とよびかけました。



軍事費ではなく、国民のいのち、暮らし、雇用をまもることにこそ予算を使うべき！



日本医労連の米沢哲書記次長は、これまで政府が社会保障政策の充実を怠ってきたことにより、医療・介護提供体制のぜい弱性が明らかになったこの夏の第 5 波で「何が起きたのか、絶対に忘れてはいけない」と強調。また、岸田首相も処遇改善に言及せざるを得ないほどケアワーカーの賃金が低く、仕事に見合っていないと指摘し、「軍事費ではなく、国民のいのちや暮らし、雇用を守ることにこそ予算を使うべきとの声を大きくしていく」と決意を述べました。



行動の最後は、国公労連の中岡淳中央執行委員によるコールで、参加者は「国民生活最優先の予算をおこなえ！」などと、国会に向けて怒りのこぶしをつよく掲げました。

